地方の短期大学における学園祭指導上の問題点

Problems in advising students on festival issues of
the junior college,which is located in the suburbs

大久保　　等

要約　地方の短期大学である本学は大学の規模が小さいため、企画参加学生数の確保、学園祭実行委員の人数の確保が問題になる。また近年の傾向として、学園祭実行委員になる学生の多くは高校での生徒会活動の未経験者であり、対社会的行動（企業や社会人との折衝、契約事項の遂行）に不慣れな場合が多く、さらに学園祭準備作業ではスケジュール管理をしないまま作業している事が多い。

このような状況において、学生の自治活動とはいえ、大学を地域公開する場であり、大学宣伝の機会と捉えて、大学も積極的に学園祭を後押しすべきだと考える。本学のような規模の小さな大学の場合、最低限、企画参加学生数の確保、学園祭実行委員の人数の確保が容易に可能な体制を準備してやる必要がある。また、学園祭準備作業をスケジュール管理させるため、ガント・チャート等のプロジェクト管理手法を導入すべきである。

1．は　じ　め　に

筆者は、青森県八戸市にある学生定員２学年で360人、幼児保育学科と現代ビジネス学科の２学科を有する郊外型短期大学に勤務しており、学務として６年間学生部に所属し、学生自治会活動に対して指導、助言を行ってきた。

学生自治会活動は、一部の大学・短大を除き、全国的にその活動の低迷が言われ続けており、自治会として機能していない状況が発生している大学･短大もあると言われている。

学生自治会の年間活動の中では、特に学園祭が最大の行事である。学園祭（本学では「学園祭」のことを「学生祭」と呼んでいるので、以下本学における学園祭については「学生祭」と呼ぶ）では、学外の団体・個人への企画参加交渉、準備作業における模擬店器材や各展示企画の必要物品の借用、また宣伝広報活動のポスター・パンフレット作成時における印刷会社との交渉、テレビ・ラジオ・新聞社などへの広報活動等々、学外団体･企業･個人との交渉が必要となり、また学生祭当日には一般市民、大学生から高校生、小・中学生まで来場する。

ところが本学学生の場合、学生祭主催団体である学生祭実行委員会の委員になる学生は、高校時代に生徒会活動など対外的な交渉に直接携わった経験の少ない学生が多く、毎

年、対外的な交渉の進め方から指導・助言しなければならないことが多い。また、現在行っている準備作業をいつまでに終わらせなければならないのか、次は何を行う必要があるのかや、各ゼミ・サークル、一般学生から集まってきた企画の競合をどう調整したら良いのか、などについて未経験な場合が多い。学生祭当日の運営においては、来場者の案内、苦情処理、安全対策なども問題になる。

この他には、本学の立地が地方都市の郊外に位置するため、来場者を確保することが大きな問題になる。

本稿では、筆者の学生自治会活動への指導・助言の中で、特に学生祭実行委員会に対する指導・助言を中心に、その中でも特に、学生祭実行委員会の組織化、全体的な作業の進め方に関する部分と、来場者確保のための宣伝広報活動、学生祭当日運営等について述べる。

2．これまでの経過

本学の創立は、昭和46年であり平成16年の今年は創立34周年を迎えた。創立当初から在職している教職員からは、創立初期の学生会は名実共に自治会として活動し、学生祭も教職員より学生達自身が積極的に行動して、教職員が引きずられる格好だったという話を聞く。しかし全国的な学生自治会活動の低迷が叫ばれるようになって、本学においても積極的に自治会活動に参加、協力する学生が減ってきたということである。

筆者は、平成10年から学務分掌として、学生部に所属し、学生会担当、特に学生会の組織について、選挙で当選した役員学生達の組織化を手伝うこと、また行事運営の際の指導・助言を行うことになった。

筆者の前任者の時期は、学生の中に三無主義（無気力・無関心・無責任）の気分が隅々まで行き渡っていた時代であり、学生の一部には、学生祭期間中（準備のための休講と本祭の期間中）を「学生祭連休」と称して、旅行や帰省する学生、アルバイトを入れる学生などがいた。そんな状況の中で、前任者は担当教職員２名を中心として、学生祭実行委員会に指導・助言を与えながら学生祭開催を維持した。

3．学生自治会活動への大学教職員の関与について

（１）平成10年に学生部所属になった際、当時の石丸浩文学長から、次のような指示を受けた。「現在の学生達は、大学創立当初の30年前のように、学生が自分達で考えて行動し、また組織として行動する力が極端に衰えて来ている。そのため、学生会担当の教職員は、学生会役員の学生に対して適切且つ充分な指導・助言を与えて欲しい」。

このことは、ごく一部を除いて多くの大学・短大でも、学生自治会指導において、大きな

問題になっていることと思う。つまり、「学生自治会」は「自治組織」なのだから、学生達の協議、決定、運営に任せるべきであって、大学の教職員は極力口出しすべきでない、という、大学としてこれまで通りの意見がある。また一方には、多くの学生が、以前に比べて対社会的行動において未熟なまま大学に入学して来てしまうため（ここでいう社会的行動とは、一般企業・団体・社会人等の交渉相手に対して、当面する事案についての自分の意見を形作り、その意見内容を適切に説明し、契約内容や見積内容に関する交渉を行い、相手との作業分担が必要であればその交渉事を行う、等である。また、その交渉の結果である約束事項を確実に実行することを指す）、たとえ名前は「自治組織」であっても、大学教職員の関与が、高等学校と同じでないにしても相当程度踏み込んだ内容まで必要である、というものである。

筆者は、本学の場合、後者の意見に賛成せざるを得ないと思っている。と言うのは、学生会役員の選挙で立候補する学生は、多くの場合、高等学校で生徒会役員未経験者が多い。これは、後年、高等学校で生徒会役員だった学生三人に聞いた話であるが、何故大学に入ってからは学生自治会役員に立候補しなかったのか、「高校時代に生徒会をやって大変だったので、もう充分です。大学ではやりたくありません」という者が二人、「高校時代は生徒会活動が忙しくて、充分な勉強ができなかったので、大学では勉強中心に学生生活を送りたい」という返事が一人だった。以上のような理由から、未経験者が立候補する割合が高くなるのだと思われる。

（２）多くの場合、筆者の学生祭実行委員会に対する具体的な助言・指導方法は、直面する事案について、幾つかの解決方法が考えられるから、その幾つかの方法を提示し、且つ学生の側からの提案を聞いて、それらの中から彼ら自身に決定させる、というものである。この方法は、解決策を幾つか考案しなければならないから、筆者の側で提案をするまで多少手間の掛かるものである。それに対して、本学教職員から「大学生を相手に、助言・指導するにしては、やりすぎではないのか。学生自治会活動なのだから、彼ら自身が一から解決方法を考え出すべきである」という指摘を受けることがある。それについて筆者も気を付けなければならないが、逆にまた多くの場合、学生会役員の側から解決法が提案されることが殆ど無いのもまた事実である。そして学生の中で少なからぬ数の人は、自分が直面する問題の解決ができない場合は、その問題について無視して、何もしないでいたずらに日数を過ごしてしまうことがある。

また大変残念なことに、学生会役員に提示する筆者の提案は、最終的に彼らに採用されることは少ない。彼らは、彼らが直面する問題に自分たちの考えた解決法で解決に当たる傾向がある。結局筆者の提案は徒労に終わり、彼らにとってサンプルにしかならないのであるが、彼らはサンプルが必要なのだと考えている。

ただし、この大学教職員の学生自治会活動への関与については、学生を一社会人として扱うという大学のあるべき姿勢と最近数年間における学生自治組織の社会的自立の状況とを総合的にみて、今後とも議論していかなければならないことだと考える。

4．学生祭実行委員会の業務内容

学生祭主催団体としての学生祭実行委員会の業務内容は、各大学で異なると思われる。本学の場合、学生祭実施に当って、主要な前提条件として以下のような項目が挙げられる。

１）本学の立地場所は、青森県八戸市の郊外にあり、スクールバス通学者の割合が高い（平成13年度の調査では、全体の約４割の学生がスクールバス通学者だった）。

スクールバスは放課後すぐに出発するため、本学の場合、サークル活動に参加する学生の割合が少ない（平成13年度の調査では、全体の約２割の学生しかサークルに登録していなかった）。

このため学生祭においても、本学の場合、サークル単位の企画よりもゼミ単位や一般学生の企画が多くを占めている。

２）本学学生会の組織は、学生総数が300人台ということもあり（総定数は360人である）、学生会執行委員会の人数が10名から20名前後と小規模である。例年、この学生会執行委員が学生祭実行委員を兼ねている。

３）本学の学生祭では、著名人やプロ歌手を招いての講演会やコンサートは殆ど行なわれて来なかった。これは伝統とも呼べるもので、学生祭予算の中で大きな金額を支出して外部から呼んだ著名人やプロ歌手による集客のためのイベントをやるよりも、自分達の手作りの学生祭でお客様をもてなそうという主旨だと理解している。

４）以前は前夜祭、または後夜祭を行っていたが、現在は学生数の漸減で学生会の予算規模が縮小し、学生祭予算の確保が難しいため、本祭のみ開催し、前夜祭、後夜祭は行っていない。

５）本学の学生祭パンフレットには、現在企業広告を載せていない。平成10年までは企業広告を取っていたが、パンフレット制作担当学生が、企業からの掲載指示内容をパンフレットに載せなかったり、広告料収入がパンフレット制作費さえ賄えない状況が発生したり等、各種トラブルが発生し、また電話予約の後、広告原稿受取りのための訪問、修正原稿受取りのための再訪問、完成パンフレットの引渡しと広告料受領のための訪問というように、何度も広告主を訪問しなければならず、１ヶ月以上も広告取り作業に費やされて他の準備作業に入るのが遅れるため、取り止めたものである。

本学における学生祭実行委員会の業務内容は、平成15年度の場合、表４－１のようになっている。学生祭実行委員会の業務内容は、企画内容によって年ごとに多少異なってくるが、だいたい表４－１のようである（この表そのものは、平成15年度の計画段階初期に想定した業務内容である）。

また、長年使われてきた学生祭本部組織の部署分けからみた作業内容の一覧を表４－２（平成15年度の例）に示す。

これでみると、学生祭主催団体としての学生祭実行委員会の作業は、大きく４つに分類することができる（この分け方は、長年本学学生祭実行委員会で行っている作業内容に沿って分類してみたものであり、他の分類方法も当然考えられる）。

１）学生祭を形として実施する。

２）宣伝・広告活動を行う。

３）学生祭本部企画の計画立案、準備作業、

学生祭当日運営をする。　　末作業日を運営する。

4）学生祭全体の準備作業日、本祭日、後始　　以下、それぞれの項目について述べる。

表４－１　第33回学生祭　学生祭本部作業一覧と役割分担表（案）

	学生祭実行委員 ＊印は責任者予定	仕事内容の詳細
企画(展示企画)	＊高岡・堀内 阿部・漆原	１．企画募集する（第１回－７月、第２回－９月初め、２回めで決定する）。本部企画や体育館企画を盛り込む。 ２．サブテーマ募集する。　３．各企画の実施可能性をチェックし、各企画と調整する。 ４．教室･学外配置を考え、各企画の営業時間帯を把握する。　５．学長宛企画書を作成する。 ６．保健所、消防署に実施届け出を行う。
宣伝・広告	＊漆原・高岡 滝沢	１．ポスター製作を考える（９月中完成、10月初め配布）。　２．企画が決定したら、企画と協力してパンフレット作成を行う（企画の学内配置地図、営業時間帯を載せる）。　３．父母･関係団体への案内状作成（９月末に発送）。 ４．テレビ・FM放送宣伝を行う。　５．新聞折込チラシを作る（10月下旬織り込む）。
借用	＊滝沢・白石 西村	１．大変手間の掛かる作業である。　２．企画から出た全ての借用物を洗い出し（模擬店機材除く）、借用できない場合、企画に断る。　３．借用可能な物を何処かから借りてくる。 ４．教室の机・イス、移動スクリーン等を数え上げ、学祭中の一時撤去場所を決め、撤去･戻し作業を行う
装飾	＊浜沢・扇田 沖澤・工藤	１．人手の掛かる作業が多い。　２．学内装飾方法を決め（花紙、風船等）、作成する。学内ポスターを考える。 ４．駐車場案内、玄関前看板作成する。　５．45号線への案内看板作成･設置する
会計	＊沖澤・浜沢 高岡・佐藤	１．企画決定された段階で、予算配分案を考える（各企画と請求金額の減額交渉を行う←９月上旬）。 ２．夏休み前後に予算支出したい企画と交渉する。　３．企画への仮払をいつから行うか決め（10／14の週？）、仮払作業を行う。　５．学祭前日夕方に（10／31）、それまでの仮払を締める（残金と領収書の回収） ６．学祭期間中、夕方毎日、各企画から売上金を回収･保管する。　７．売上のあった企画への還付金割合を決め、学祭終了後１週間以内に還付する。　７．決算報告書を作る
本部企画	＊堀内・漆原 山崎	１．体育館以外の本部企画（スタンプラリーや演芸大会）を考えて、企画に申し込む。 ２．本部企画の参加者募集や準備を行う。　３．当日の運営をする
模擬店	＊阿部・扇田 浜沢	１．最大10店舗程度募集し、企画に申し込む（これ以上になると、各店舗の売上が赤字になる）。 ２．模擬店機材を借りる。　３．各店舗に前日調理練習させる。　４．各店舗に衛生管理させる。
外部団体	＊大柳・高岡	１．同窓会、のぞみ園等、学生会外部団体との交渉をする（企画募集や、決定された学内配置、営業時間帯等の連絡窓口を行う）。
体育館	＊白石・堀内 日陰	１．体育館企画が出ない場合、本部体育館企画を考えて、企画に申し込む。　２．体育館企画の準備物品、時間配分を各企画と調整する。本部企画の出場者募集を行う。　３．学生祭当日の維持運営をする。
学生祭当日の役割分担		
来賓受付	＊高岡・阿部	１．スーツ着用。　２．来賓（案内状送付済み）が来場した場合、館内案内を申し出る。 ３．不要と言われたら無理強いしない
一般受付	＊堀内	１．スーツ着用　２．内履きスリッパに履き替えて貰う。　３．ビニール下足袋を渡す。 ４．パンフレットとアンケート用紙、スタンプラリー用紙を渡す。　５．来場者数を数える。 ６．退場時にアンケート記入を依頼する。　７．雨天時は傘袋を準備する。
駐車場	＊山崎	１．学生駐車場に誘導する。　２．学生駐車場満杯になったら、ジャリ駐車場に誘導する。 ３．奥の方から駐車して貰う。　３．外部団体車両は、教職員駐車場に誘導する
館内ゴミ回収・清掃	＊阿部・工藤	１．定時に館内ゴミ回収とトイレットペーパー交換する。　２．１日目のゴミ保管場所を決める。 ３．２日目終了後のゴミ集積場所を決めて連絡する。　４．ゴミ収集業者に事前予約する
館内放送	＊漆原	１．必要放送を考えておく（開場・閉館放送、体育館やイベント企画等）。 ２．随時依頼の放送受付場所を連絡する

※１　平成15年度　第33回学生祭資料を一部修正した。　※２　他の表と各部署の実行委員担当者が異なるのは、作業を進める過程で担当者の交代があったため。

表４－２　学生祭本部作業一覧（本部組織との対応）

学生祭本部作業	学生祭本部組織の対応部署	外部折衝必要項目
1．学生祭全体を実施する（学内体制準備） （1）企画募集、実施内容チェック 　1）展示企画 　2）模擬店 　3）外部団体 （2）使用教室配置・実施時間帯決定 （3）借用物の借用作業 （4）学生祭予算配分案作成･広告 （5）関係機関への届け出 　1）学長へ実施計画書提出 　2）消防署･保健所への申請	（1）企画 　1）企画 　2）模擬店 　3）外部団体 （2）企画 （3）借用 （4）企画・会計 （5）企画	3）後援会・外部企業等 2）消防署･保健所
2．宣伝･広告する（集客作業） （1）ポスター作成･配布 （2）テレビ・ラジオ放送 　1）NHKローカル番組出演「情報ランチ－学園祭特集」 　2）青森放送「生テレビ」 （3）新聞「折込み広告」作成･配布依頼 （4）案内状送付 　1）父母宛 　2）光星学院各団体（教育施設と後援会等）宛 　3）高校・他大学宛 　4）幼稚園･保育園･施設宛 （5）看板設置 　1）路上の案内看板 　2）大学正面の看板 （6）パンフレット作成	2．宣伝・広告 （5）装飾	（1）印刷所、配布先デパート等 （2）1）NHK青森放送 　2）青森放送 （3）印刷所、デーリー東北新聞社 （4）1）印刷所、郵便局 　2）　〃 　3）　〃 　4）　〃 （5）1）地主 （6）印刷所
3．準備作業日・本祭日・後始末作業日を運営する（当日作業） （1）準備･後始末作業（責任者を集めての説明が必要） 　1）企画への借用物の説明・配布・回収 　2）金銭の授受方法の説明・授受・領収書・残金の回収 　3）教室机の調査・撤去・再設置 　4）学内装飾 　5）企画毎の学内ポスター作成 （2）本祭運営作業 　1）受付準備・運営・後始末 　ア）来賓 　イ）一般 　2）駐車場誘導計画・実施 　3）清掃計画（ゴミ集積場所・回収時間決定） 　ア）ゴミ回収・トイレットペーパー交換 　イ）１日目終了後の清掃 　ウ）ゴミ搬出作業 　4）館内案内放送	（1） 　1）借用 　2）会計 　3）借用 　4）装飾 　5）各企画毎に行う （2） 　1）受付係 　2）駐車場係 　3）清掃班 　4）放送係	（1）参加外部団体への連絡必要
4．学生祭本部企画を準備運営する（本部企画） （1）フリーマーケット （2）スタンプラリー （3）演芸大会 （5）農産物・日用品の廉価販売　等	4．本部企画の体育館担当、他各担当部署	個別の内容による （5）農産物・日用品の購入先

※　平成15年度　第33回学生祭資料を参考にした。

5．学生祭を形として実施する

5－1．学生祭実行委員会の組織化、学生祭の全体計画立案（企画募集中心）、作業管理に関すること

（1）平成15年度までの本学学生会組織は、学生会規約では学生会中央委員の選挙を行って（定員20名）、その中から互選された執行委員長・副委員長・書記長と、執行委員長が全会員の中から指名した執行委員若干名で執行委員会を形成してきた（執行委員以外の中央委員は、学生総会の運営や執行委員会の監視役に当たることになる）。また学生祭実行委員会は、執行委員会が全会員の中から指名した学生祭実行委員長・副委員長の他、学生祭実行委員長が全会員の中から指名した実行委員若干名で構成されてきた。

そのため執行委員が学生祭実行委員を兼ねるのは、本学学生会規約上は問題が無い。しかし中央委員選挙そのものに立候補者が立たないことが何年も繰り返され、これまで立候補受付期間の延長等により、何とか立候補者を確保してきた経緯がある（立候補受付期間の延長でも定員を確保できない場合が有り、欠員のまま翌年度学生会中央委員会が発足することも多い）。このような状況であるから、学生祭実行委員会についても実行委員の人数不足が毎年問題になってきた（規約上は、人数制限が無いので委員長・副委員長以外何人でも構わないのであるが、委員が数名の場合実際の運営ができないという問題が発生していた）。

筆者が学生会担当となった平成10年度は、学生祭実行委員会への助言として、一般学生の実行委員会への勧誘に重点を置いたが、大した効果を発揮しなかった。

具体的には、学生祭実行委員会内に「一般学生巻き込み」の部署を設け、積極的に一般学生を勧誘して行こうというものだったが、実行委員自身が学内で顔を見たことがあるだけの一般学生には声を掛けにくいのである。結局、実行委員の個人的友人・知人達が委員として集まることになり、全学生の学生祭と呼べにくい状況であった。また、本学には幼児保育学科と現代ビジネス学科の２学科あるのであるが、実行委員の友人・知人がそれぞれ集まると、学科毎にグループができてしまい、お互いのコミュニケーションが充分に取れなくなることも多い。

平成16年度は、学生会規約改正が行われて、中央委員選挙を廃止して、ゼミ毎に選出された代表者が中央委員になることになった。この改正により今後は執行委員会の組織、それに連なる学生祭実行委員会の組織が、これまでよりスムーズに組織化できると考えられる。

（2）他大学では、前年度の学園祭終了後すぐに、翌年度の学園祭準備に入るという話も聞くが、本学では例年新年度に入った６月下旬または７月上旬から準備に入っている。これは、前述したように、例年学生会執行委員が学生祭実行委員を兼ねている場合が多く、学生会執行委員会が他の行事運営に追われ、この時期以降でなければ作業に取り掛かれないためである。もちろん、学生祭での企画発表を考えているゼミの中には、それ以前から準備に入っているゼミもある。

（3）学生祭準備作業の初めは企画募集から

始まる。本学の場合平成13年まで自由応募であったため、毎年応募数が少なく、学生祭実行委員会では企画集めに大変苦労していた。それまで７月下旬を第１次締切、９月上旬を第２次締切に設定していたが、第１次締切時点で、模擬店と展示企画を足しても10企画集まらないことが度々あった。その後第２次締切までの期間、実行委員が個別に各ゼミに発表を依頼して回ったり、知人・友人を頼って一般学生企画を集めていた。それでも、ゼミ企画、サークル企画、一般学生企画、学生会外部団体企画、学生祭本部企画を全部足しても企画数が20前後にとどまっていた。

平成14年度から、当時の故織戸芳郎学長の大学運営方針の一つとして、学生祭を大学としても全面的にバックアップする方針が示され、全てのゼミが何らかの形で学生祭に参加することになった。平成14年度以降、学生祭実行委員会は、学生祭参加企画の募集に以前ほど苦労せずに済んでいる（平成15年度は41企画の参加があった）。

筆者は、前述した学生会中央委員にゼミ代表者を充てること（この学生達は、学生祭で実行委員として活動することになる）、そのゼミ代表者選出の際ゼミ教員が多少とも関わること、また学生祭に大学教職員が協力して、ゼミ企画または学科企画等の方法で参加することは、学生祭を「学内の学生行事」として捉えるのでなく、「地域社会に公開する学生行事」として捉える立場からすれば必要なことだと考えている。それは、中学・高校の文化祭と異なり、主催はあくまで学生会であるが、大学も敷地や施設を学生祭実行委員会に貸し出すというだけでなく、積極的に協賛する必要があるということである。

これは、学生数が数千人から数万人に及ぶような大規模大学の場合は別として、本学のように数百人規模の短期大学の場合は、学生祭実行委員のメンバーの確保、出展企画数の確保という量的な面からも必要だと考える。

（４）筆者が学生会担当になった当時、学生祭実行委員会の準備作業を見ていると、その作業をいつまでに終わらせなければならないのかや、現在取り組んでいる作業と次の作業の手順を考えずに作業に取り組んでいる場合があると感じた。例えば、学生祭ポスターが学生祭本祭日の４、５日前に完成し、学生祭前日まで高校・大学への郵送作業や地域のスーパー、コンビニエンスストアに掲示依頼で出歩いたことがあった。また模擬店用機材は毎年レンタルショップから借りているのであるが、地元商工会のイベントと重なり、先に借用予約が入っていたため、必要機材を調達できずに幾つかの模擬店を諦めざるをえないことがあった。

このため、学生祭実行委員会に提案して、準備作業の進捗管理表を作成することにした。表５－１は、プロジェクト管理に一般的に用いられる、ガント・チャートの手法で作成した学生祭準備作業のスケジュール表である（表５－１は、平成15年度のスケジュール表を示す）。このスケジュール表作成には、毎年行われている準備項目の詳細作業内容の洗い出しが必要であったため、毎年実行委員の学生と協議を重ね、数年の期間を要し、平成13年度から使用している。

また表５－２に、学生祭本祭の10日前から本祭日までの、10日間の具体的な準備内容を載せた進捗管理表を示す。

これ等により、学生祭実行委員の各部署担

03/07/03作成

表５－１　第33回学生祭スケジュール表

行事／学祭部署	担当者	個別作業項目	7月 1-6	7-13	14-20	21-	8月 25-31	9月 1-7 2月前	8-14	15-21	22-28	10月 29-5 1月前	6-12	13-19 2週前	20-26 1週前	27 月	28 火	29 水	30 木	31 金	11月 1 土	2 日	3 月	4 火
前期試験 夏期休業 前期再試験 幼教２年実習 学祭準備・学祭・後始末	*印が責任者を示す				前期試験	夏期休業		前期試験	幼教２年実習										学祭準備		学祭	学祭始末	代休	
企画（主に展示企画）	*高岡・堀内・阿部・漆原	企画募集（第１回）	募集1回め																					
		ｻﾌﾞﾃｰﾏ決定						企画最終締切																
		企画募集（第２回）「企画書回収」	ｻﾌﾞﾃｰﾏ募集		掲示			募集2回め																
		企画内容のﾁｪｯｸ・調整、配置図・時間帯決定						企画ﾁｪｯｸ																
		学長宛企画書作成・提出									学長宛企画書作成・提出													
		保健所、消防署へ届け出										保健所・消防署へ届け												
宣伝・広告	*漆原・高岡・滝沢	ﾎﾟｽﾀｰ作者決定・作成・発注・配布				原案作成			発注、納品			配布		関係機関へ配布										
		ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ作成・発注・配布						案内状作成・発注				発注												
		父母・関係団体案内作成、発注、送付																ﾌﾚｯﾄ生テレビ						
		ﾃﾚﾋﾞ・FM宣伝（随時になるかも？）										折込広告作成、発注												
		新聞折込作成（企画紹介）、発注															新聞配達中							
借用	*滝沢・白石・西村	借用不可能物品のﾁｪｯｸ					借用品ﾁｪｯｸ																	
		借用書の作成・各機関へ提出											借用書作成・提出											
		借用、企画へ配布・回収、返却															借用物搬入・企画へ配布					返却		
装飾	*浜沢・扇田・沖澤・工藤	看板作成・設置・撤去								看板作成、設置														看板撤去
		装飾方法決定、装飾物作成（山ほど）						方法決定	装飾物作成										装飾			撤去		
		装飾、撤去																						
会計	*沖澤・浜沢・高岡・佐藤	企画予算限度額決定・通知	企画予算限度額決定、通知																					
		予算請求ﾁｪｯｸ・調整						予算請求ﾁｪｯｸ																
		学祭予算案作成						予算案作成																
		予算支出は原則本部関係のみの期間								原則本部関係のみ支出期間														
		企画へ仮払開始、領収書・残金回収						予算案決定						企画へ仮払開始					領収書					
		釣り銭準備・配布																	残金回収					
		学祭中の緊急支出の管理、領収書・残金受領																	釣銭		学祭中の緊急支出管理			
		学祭中の売上回収、翌朝再配布、最終回収																			売上回収・再配布・再回収			
		還付金計算、還付金配布															還付金計算、配布（1週間以内）							
		学祭決算書作成																	決算書作成（2週間以内）					
本部企画	*堀内・漆原・山崎	本部企画考案・企画書提出	1回め考案				2回め考案																	
		参加募集・準備（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・係員・道具、景品等）								参加募集				機材・道具・景品準備										
		機材・道具のｾｯﾄ、学祭当日運営																	機材・道具のｾｯﾄ					
		本部企画折込広告作成										折込広告作成									当日運営			
模擬店	*阿部・扇田・浜沢	模擬店募集、模擬店企画のﾁｪｯｸ・折衝、配置決定	1回め募集				2回め募集																	
		模擬店機材借用折衝、注文（1月前にﾚﾝﾀﾙ屋の在庫確認）							注文・在庫確認															
		機材の搬入、返却																	機材搬入			返却		
		模擬店への衛生指導、調理練習指導															衛生・調理練習指導							
		模擬店ﾃﾝﾄ・長机の借用申込み、ｶﾞｽ・ｺﾝﾛの注文、搬入・返却							ﾃﾝﾄ・長机	ｶﾞｽ・ｺﾝﾛ										ﾃﾝﾄ・ｺﾝﾛ搬入		返却		
外部団体	*大柳・高岡	昨年参加団体へ確認（同窓会、系列高、のぞみ園、くるみの里、ﾓｰﾀｰｽｸｰﾙ、ﾗｲｾﾝｽｽｸｰﾙ等）																						
		学内配置、時間帯連絡調整								配置、時間帯連絡														
																			同窓会準備手伝					
																					新聞掲載			
体育館	*白石・堀内・日陰	体育館企画募集、自企画考案・企画書提出	1回め募集				2回め募集			出場募集				機材・道具準備										
		出場募集・準備（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、司会、道具、景品等）																	機材・道具のｾｯﾄ					
		機材・道具のｾｯﾄ、当日運営																			当日運営			

※　平成15年度　第33回学生祭資料を一部修正した。

表５－２　第33回学生祭　進捗管理表（10／21現在）

※　日付の後ろに、「掲示」、「作成作業」、「出演」、「設置作業」、「集合」等を記入している。

	担　当　者 ＊印が全体、個別責任者を示す	進捗状況（10／22－11／２） 22(水)　23(木)　24(金)　25(土)　26(日)　27(月)　28(火)　29(水)　30(木)　31(金)　11／1(土)　／2(日)
（１）学生祭全体を実施する（学内準備）	＊高岡	
①企画募集、配置決定	＊高岡･堀内･滝澤	済み
②借用物の借用作業	＊滝澤･白石･西村	済み（）
③関係機関への届け出	＊高岡	早急
１）学長へ実施企画書提出	高岡	21 8割済み（22に提出予定）
２）消防署･保健所への申請	高岡	〃
（２）広告･宣伝する（集客）	＊漆原	
①ポスター作成･配布	＊高岡･佐藤･工藤･西村	済み（市内デパート、スーパー、近隣コンビニ）
②テレビ・ラジオ放送	＊漆原	
１）NHK出演「情報ランチ」	＊高岡･阿部･漆原･滝澤	23 出発　24 11：30出演予定
２）青森放送「生テレビ」	＊漆原･沖沢･浜沢 大柳･扇田	30 17：55出演
③案内状送付	＊高岡･滝澤	
１）父母宛	〃	済み
２）光星学院関係団体宛	〃	済み
３）高校･大学宛	〃	済み
④看板設置		
１）路上の案内看板	＊佐藤･工藤･西村	済み（５箇所）
⑤新聞折込広告	＊滝澤･堀内	22 修正原稿渡し予定　27 折込センター搬入　31 折込日
⑥パンフレット作成	＊高岡	20 修正版渡し済み
（３）準備日・本祭日・後始末日を運営する（当日作業）	＊高岡	
①準備･後始末作業(責任者を集めての説明が必要)	＊高岡･阿部･滝沢 堀内	22 掲示　24 全体説明（借用、模擬店、事務用品、会計の総て説明する）
１）企画への借用物の説明･配布・回収	＊滝沢･堀内	22 掲示　24 全体説明　30 借用　31 配布　2 夕回収･返却

	担　当　者 ＊印が全体、個別責任者を示す	進捗状況（10／22－11／2） 22(水)　23(木)　24(金)　25(土)　26(日)　27(月)　28(火)　29(水)　30(木)　31(金)　11／1(土)　／2(日)
2）金銭の授受方法の説明・授受・領収書･残金の回収	＊沖沢･浜沢	22 掲示　24 全体説明、仮払い開始　31 夕領収書･残金回収、釣銭配布　1 売上金回収　2 〃
3）教室机の調査･撤去･戻し	＊滝沢･堀内･阿部	28 机数調査　30 机撤去　2 夕戻し
4）学内装飾	＊浜沢･扇田	21 現在、花・テープリボン作成中（充分かも？）
5）企画毎のポスター作成	＊堀内･白石	22－24 事務用品の残数チェック。24 全体説明（準備日の事務用品貸出し方法）（※事務局に借りに行かせないこと）
②本祭運営作業		
1）受付準備・実施・後始末	＊大柳（受付アルバイト6）	30 受付机、館内スリッパ、パンフ準備　2 夕片付け
ア）来賓（同窓会係含む？）	＊高岡･阿部（バイト2）	
イ）一般	＊大柳（バイト4）	
2）駐車場案内計画・実施	＊西村（駐車場アルバイト4）	30 指示棒、無線借用　2 夕返却
3）模擬店	＊阿部･工藤	24 全体説明（調理器具貸出し、清潔・食中毒対策）　30 貸出し、会場設営　2 夕回収
3）清掃作業計画（ゴミ集積場所決定・ゴミ袋準備）	＊阿部･工藤	24 ゴミ集積方法説明
ア）ゴミ回収・トイレットペーパー交換	＊阿部･工藤	
イ）30日終了後の清掃		企画毎に行わせる
ウ）ゴミ搬出作業	＊高岡	21 ゴミ業者予約済み　3 15時回収
4）館内案内放送	＊漆原	
（4）学生祭本部企画を運営（本部企画）	＊堀内	
①フリーマーケット	＊堀内	21 出店者募集済み（4名出店）
②スタンプラリー	＊滝沢	21 景品購入済み　30 抽籤機借用　2 夕返却
③演芸大会	＊堀内･白石	21 参加者募集済み（7名出場）
④インターネット無料体験	＊滝沢	
⑤映画上映	＊扇田	31 借用　2 返却

※1　平成15年度　第33回学生祭資料を一部修正した。
※2　「表5－1　第33回　学生祭スケジュール表」と担当者が異なるのは、作業を進める過程で担当者の交代があったため。

当者は、自分の担当項目の進捗状況把握ができるようになり、また実行委員長等の責任者も全体的な作業進捗状況が把握可能になったと考える。

（5）当初、筆者は学生祭実行委員会の準備会議に参加しなかったが、（4）で述べたトラブル等、準備作業の工程管理に幾つかの問題があると感じて、翌年から実行委員長の承諾を得て時々出席することにした。

学生祭準備会議に出席して気付いたことは、各部署責任者からの作業進捗報告として「準備は予定通り進んでいます」、「今の所、問題ありません」という発言が非常に多いことである。そういう報告に対して、質問する学生がいないのも不思議な気がした。「何が終わって、これから何をやろうとしている」から予定通りなのか、各企画から提出された企画書の内容や、折衝中の事柄で返事待ちの項目の中に、「あやふやで明確になっていないことが無いか」という点の追求が、会議全体の雰囲気として不足していると感じた。例えば、試しに「父母や本学関係者への案内状は発送したのか、発送が既に終わっていないと、先方も予定があるのだから、学生祭の数日前に案内状が届いても、予定を空けられないだろう」と聞くと、「明日、印刷屋さんに連絡します」という返事が返ってきたことがあった。つまり、各部署責任者自身でさえ、作業内容の全体が把握できていない場合や問題点の洗い出し作業が不充分な場合がある。

そのため、議長役の学生や実行委員長に、会議に際しては、各発言者に対して毎回具体的な説明を求めるように助言した。

準備会議を中身の濃い、各部署の動きが明確に把握できる充実した内容にできるかどうかは、（4）で述べた工程管理表の利用とともに大変重要であると考える。

５－２．大学教職員の参加企画・外部団体企画との交渉の難しさについて

（1）「3」で述べた、学生自治会活動への大学教職員の関与にも関連することであるが、学生祭準備作業の企画募集において、大学教職員がゼミ企画を指導・助言等の何らかの形で出展協力してくれるのは、主催者としての学生祭実行委員会も歓迎している。ただし、実行委員会の運営方針に反して、使用教室の割当てや借用可能な物品の種類・数量、学生祭予算の配分額等において、教職員自身の主張を押し通す人が稀にいるため、実行委員会では調整に大変苦労することになる。実行委員の学生達は、通常の講義で授業を受け、事務処理のサービスを受けている受動的立場であるから、実行委員会全体で決めた方針であっても、強く主張できなくなる。この場合、学生会担当の教職員が、間に入って調整する必要がある。出展協力、その事自体は学生祭実行委員会も歓迎しているので、大学教職員の側も、実行委員会と連絡を取り合い、その運営方針に沿った形での協力をして欲しいものである。

（2）教職員の中には、稀にではあるが、本学とこれまであまり関係を持たない、個人的な知己で、外部団体・企業等の出展参加を紹介する人がいる。この場合の外部団体・企業側の姿勢は、個別に大きく異なる。一つは、「出展物は提供するが、運搬作業や返却作業を学生祭実行委員会側で行って欲しい」、また学生祭当日は週末で会社は休みになるので、「出展物は提供するが、職員を派遣できない

ので、学生祭実行委員会側で係員を配置して欲しい」、という場合である。また逆に、古着・リサイクル商品販売や食品販売を行っている会社であれば、数人の社員が準備作業を行い、当日の係員を配置して、学生のフリーマーケットや模擬店に比べて大きな売上げを出したりする。

以上のように外部団体が学生祭に参加する場合は、学生祭実行委員会で参加企業・団体の性格や参加の趣旨などを精査する必要がある。また、外部団体を紹介する教職員は、紹介しただけで、その後の様々な交渉事を実行委員会に任せてしまう人がいるので、学生祭実行委員会の運営方針を、相手方企業・団体に伝達する役割を負って欲しいものである。

５－３．会計方法について

本学の学生祭は、年度当初の学生総会で学生祭の予算総額が決められる（本学は学生総数300人～400人の小規模大学であるため、学生祭予算総額としては、ここ数年200万円～300万円で推移している）。学生祭各企画への予算配分案は、だいたい総ての企画が出揃った段階（企画の２次募集が終了した９月中旬～下旬）に、学生祭会計から示される。これは全体的な企画の数や規模が判明しないと予算配分案が決定できないからである。しかし、この時期には既に学生祭ポスターの制作に入っており、また学生企画の中には夏期休業前から準備に入っている企画もあるため、それらについて織り込んだ内容の予算配分案作成になる。

夏期休業前から準備に入るゼミ企画等もあるため、過去数年の金額を参考にして展示企画・模擬店企画については一定額を決め、６月下旬～７月上旬に、学生祭会計から金額が示される。学生祭本部企画は学生の企画とは分けて考え、一定額を超えても認めている。これは、各学生企画の公平を図るとともに、学生祭本部としてメインイベントを企画立案したり、個別の企画では実施が難しい、より大きな企画を実施できるようにしているためである。外部団体参加企画は、展示物等の完成品を持ち込んで貰うこととし、使用教室の割当てと借用机の貸出しを行う程度で、基本的に材料購入のための予算割当てはしていない。

学生祭予算で問題になるのは、１）各学生企画で共通に使われる物品（例えば文房具用品）や、学生祭終了後、最終的に個人の帰属になり得る物品の購入を認めるのか、また交通費の支出を認めるのか、等の各企画の支出内容に関する基準と、２）学生祭実行委員の交通費、実行委員同士の連絡や外部団体との交渉のための携帯電話代、夕方遅くまで作業して残った際の弁当代等、実行委員会の経費に関する部分である。各企画の支出内容に関する基準は、ある基準を採用して数年経つと学生祭実行委員会で基準の変更が行われているが、筆者はなるべく材料費のみに限定したほうが良いのではないか、と考えている。一方、学生祭実行委員の作業に伴う経費については、筆者の担当以前は不明確だったものを、予算案の中に項目として設け配分額を決めるように助言して、現在はそうなっている。また、その具体的な支出については、一律の基準で支出するようになった（例えば交通費は、学生からの借上げ車両について、学生祭１ヶ月前から、一律１週間当たり2,000円など）。しかし学生祭実行委員会の準備作業に伴う経

費について、実行委員はボランティアとして活動すべきであり、経費を支出するのは良くない、という意見もあり、今後議論して行かなければならない問題である。

6．宣伝・広告活動に関すること

本学は八戸市の郊外にあり、大学進学を考えている高校生は別として、一般市民の中には本学の名称を新聞等で知っていても、実際の場所について知らない市民もいる。

このような状況であるから、本学学生祭を開催するに当たって、宣伝・広告の方法と規模は、来場者数確保に大きな差違を生じさせる。しかし、実行委員の学生の中には、この宣伝・広告の重要性を軽視している学生もいる。来場者数の多い少ないで、学生祭開催の成否を論ずるのは行き過ぎかもしれないが、学生達が１年または数ヶ月間掛けて準備したものを見る人がいないのは、多少物足りないと言わざるを得ない。

現在、本学学生祭開催に当たって行っている宣伝・広告は以下のとおりである。

１）学生祭ポスターの配布

ポスターは、学校法人光星学院の各教育機関、八戸市内並びに近隣の高校・大学、本学は幼児保育学科を有しているので、八戸市内並びに近隣地域の幼稚園・保育園・障害者施設等に配布し、また市内デパート、スーパーマーケット、コンビニエンスストア店頭への掲示依頼を行っている。

２）新聞折り込みチラシの配布

新聞折り込みチラシは、八戸市内９万５千世帯全てに配布するのは経費が大きくなりすぎて難しいため、本学を中心とした地域に２万～３万部配布している。

３）テレビ・ラジオ・ＦＭラジオ宣伝

ア）ＮＨＫ青森放送の情報番組で企画される「学園祭特集」に、平成14年から学生祭実行委員の代表者が出演している。

イ）民放である青森放送のイベント紹介コーナーに毎年出演して、学生祭の宣伝をしている。

ウ）その他、地元のＦＭ放送番組で取り上げて貰えるようにしている。

４）学生父母や本学関係者、並びに学校法人光星学院関係者に案内状を送付している（過去数年間の卒業生宛に案内状を送付したこともあったが、10名前後の来場者しか確保できなかったため、現在は行っていない）。

５）本学近くを走る八戸市から隣町に向かう幹線道路沿いに、学生祭開催の案内看板を１～２週間前から設置している。

これらの宣伝・広告活動を行って、来場者数は学生祭本祭期間中２日間で1,000人前後である。

筆者が学生会担当になった平成10年当時、来場者数は500人前後であった。その当時の宣伝・広告の方法に比べると一、二変わった程度で大きな違いは無い。重要なのは、宣伝・広告作業のスケジュール管理と学生祭自身の企画の中身にあると思われる。

１）宣伝・広告には適切な時期があり、一般市民は、週末に開催される本学学生祭のポスターを数日前に見ても、既に週末の予定を立

ててしまっていると思われる。よって、宣伝・広告作業のスケジュール管理は重要である。

２）以前は、来場者が展示物を見学するだけの企画と模擬店が殆どだったが、ここ数年、来場者参加型の企画が増えている。これは学生祭実行委員会が企画募集の際にそういう方向にリードしたわけではないが、全学のゼミが参加するようになって、来場者参加型の企画が自然発生的に増えたのである。

来場者を確保するための企画として、以前から野菜や生活必需品の廉価販売企画が行われていた。これは大学周辺の住民には大変人気があり、販売開始時間前から行列ができるほどで、実行委員会側から見ても来場者数確保に大変役立つ企画だったと思う。しかし年を経るごとに、それを目的にして、他の企画を見ることも無く、買い物を済ませたらすぐに帰ってしまう人が増えてしまったため、現在では中止している。

一方、最近の参加型の企画としては、幼稚園児参加型にして各幼稚園に案内を送付し、しかも参加者人数を幼稚園毎に事前に知らせて貰うようにしていた企画があった（幼稚園児が企画参加する場合は保護者も必ず来場するので、来場者数がその分増える結果になった）。

以上２点が、来場者数の大幅な増加に貢献したと思われる。

また、ポスターには全ての企画紹介を載せることがスペース的に不可能なので、パンフレットのサンプルとポスターを一緒に配布する方法が有効であると思われる。実際個別の企画を見ると一般市民も興味を抱きそうなユニークなものがある。例えば毎年出展される企画としては、ブローチやペンダント製作を実体験する「七宝焼」や、デジタルカメラで撮った本人の写真をＴシャツやカレンダーにカラー印刷する「デジカメ印刷工房」という企画等がある。しかし、パンフレットには全ての企画説明を掲載しなければならず、新規企画の中にはタイトルは決定しているが詳細を決めていない企画も存在しており、企画全体の足並みが整わないため、パンフレットの完成が学生祭の１週間前頃になることが多い。この時期では、宣伝・広告の効果が小さいため配布を諦めざるを得ない。今後、企画側へ早め早めの企画内容の具体化を要求して行く必要があると考える。

さらに、これまで本学学生祭実行委員会では採用して来なかったのであるが、本学ＷＥＢサイト上に学生会のページがあるので、ここに学生祭の特集を組んで、各企画の具体的な内容説明を掲載する方法が考えられる。ポスターに本学ＵＲＬを掲載すれば、各企画の詳細が多少遅れても、学生祭本祭までの期間には閲覧が可能である。

最後に、来場者数確保の問題として、本学が八戸市郊外に位置するため、交通アクセスの不便が挙げられる。公共交通機関としては、八戸市営バスが朝夕の時間帯を中心にして、全部で１日８本走っているのみである。日中は２時間に１本という時間帯もある。このため、高校生以下では生徒だけの来場が難しい。自家用自動車での来場が前提になっているのである。以前には、来場者用にスクールバスを数台運行したこともあったが、バス運行時間帯の周知が不充分だったためか、乗客が数人しかいなかった。この本学へのアクセスの不便は、現在のところ解決方法が無いため、大人も子供も同時に興味が持てて、小・中・

高校生の子供と一緒に、親も来場したくなるような企画（且つ大学の特色が出せるような企画）を考えて行く必要があると思う。

7．学生祭本部企画を計画立案し、準備作業を行ない、学生祭の当日運営を行う

（1）ゼミ企画や一般学生企画と、学生祭本部企画を比べた場合、企画内容から見た大きな違いは、ゼミ企画等の個別企画は、企画主催者自身が出演者や物品提供者として来場者に接するものが殆どなのに対して、学生祭本部企画は、企画主催者として出演者や物品提供者を募集することから始めるものが含まれることである。「演芸大会」や「フリーマーケット」等がこれである。このため、出演者や物品提供者を集めるのに苦労することになる。本学学生祭の場合、例えば「演芸大会」の出演者がなかなか集まらず、数人の出演者で行ったこともある。「フリーマーケット」は、過去には必ず物品提供者が出る企画であったが、最近は「フリーマーケットが何か」を知らない学生が増えて、出店応募者が数人に留まっている。

（2）また学生祭本部企画には、ゼミ企画等に比べて、使用予算規模の大きな企画が含まれる。これは、一つのゼミに大きな企画予算を認めると、他のゼミと不公平になるため認めることができない。よって、予算規模の大きな企画は学生祭本部企画として行わざるを得ない、という事情がある。

この他、学生祭本部企画の具体的な内容については、年ごとに学生祭実行委員会で考えるものは様々であり、一概に論ずることができないため、ここで述べることは難しい。

8．学生祭準備作業日、本祭日、後始末作業日を運営する

本学では、年間行事予定に、本祭日の他に、学内装飾と展示企画や模擬店企画設営のための学生祭準備日と、学生祭終了後の後始末日を設けている。各企画毎の準備作業は夏期休業中や放課後にも行われているが、全学的に企画の設営や学内装飾が行われるのは準備日からになる。

この学生祭準備作業日、本祭日、後始末日で問題になるのは、1）各企画へ借用物品・金銭等の受渡しと、回収の日時・場所を明確に伝えておくこと、2）実行委員の配置とタイムスケジュールを決めておくことである。表8－1に、平成15年度の準備作業日・本祭日の作業内容詳細と、実行委員配置の一覧を示す。

これらの事は、一斉に多数の人間が動く場合、それを統制する組織としては当然必要になることだと思うが、学生祭実行委員会には各種イベントを主催者側として実施した経験の少ない学生が多く、たびたび問題になる。以下それぞれについて、特に注意すべき点を具体的に述べる。

（1）学生祭準備作業

学生祭準備作業日は、他学の学園祭も同じような光景が展開されるのだと思うが、全学一斉に動き出すので、手順を決め、全企画宛に通知しておかないと、作業の滞ることがしばしば発生する。

1）模擬店機材の貸出しや、展示企画その他の借用物の貸出しと返却方法、金銭の受け渡し方法、領収書と残金の返還方法を、全企画に前もって通知しておく必要がある。この事は当然必要になることであるが、実際当日になると、連絡が徹底していないことが多く、各企画が勝手に借用数以上に持って行って、他の企画に割り当てるべき在庫数が不足することがある。毎年問題になるのは、会議用の折畳み式長机と、展示用パネルの不足である。

2）模擬店関係者への衛生管理は当然であるが、充分な調理練習が必要な場合がある。最近は、女子学生、男子学生ともに調理経験の殆ど無い学生がいる。生煮えのたこ焼きや加熱不充分な焼きそばを来場者に販売して、苦情を受けることがある。

（2）学生祭本祭日運営

1）学生祭本祭においては、実行委員配置について、交代要員を含めた配置を考える必要がある。交代要員がいないため、各企画の展示を見ることなく、昼食も取らずに1日中駐車場誘導係をする委員が出たり、緊急時の連絡先である本部に、1日中詰めている委員が出たことがあった。

2）本学の学生祭では、これまで幸いにして大きな事故の発生を聞いていないが、緊急時の連絡網を整え、避難経路を考えて置くことも重要である。実行委員の学生達は、しばしば緊急事態の発生を殆ど考えていないことがある。

3）学生祭本祭運営で、最後に、筆者がいつも気になる点を述べる。

学生祭本祭には、一般市民や他大学生、小・中・高校生が来場する。これらの来場者は、当然の事ながら本学の教室配置を知らない。本学は創立当初、当時の幼児教育学科（現 幼児保育学科）1科から始まり、昭和62年に経営情報学科（現 現代ビジネス学科）が増設された。そのため、初めての来場者には学内構造が分かりづらい。しかし、学生たちは平日授業を受けているため既知であり、そういう初めての来場者に対する配慮（学内見取り図の掲示や企画配置図の貼り出し等）に気付かないでいることがある。

また、来場者から「○○の企画は、どちらの教室で行われているのですか？」と聞かれた一般学生が、本人は急いでいたらしく「知りません」と早口で答えて、その場を去ってしまったのを、目撃したことがある。

道路上に設置した案内看板も含めて、学内の案内標示、来場者と直接接した時の受け答え等、来場者に対するサービス精神の不足を感じることがある。

この来場者に対するサービス精神を学生自治会行事としての学生祭に求めるのは、一般社会人並みの要求だとして拒絶されるかもしれないが、今後考えて行くべき問題だと考える。

（3）後始末作業

1）当然の事であるが、借用物の個数の確認が必要である。しばしば返却すべき個数が不足していることがある。

2）問題になるのは、学生祭で出た大量のゴ

03/10/29作成

表8-1 第33回 学生祭 準備作業日・本祭日の作業内容と委員配置表

		高岡（委員長）	阿部（模擬店）	滝澤（借用・本部企画）	大柳（受付）	堀内（借用・本部企画）	白石（体育館）	漆原（放送）	沖澤（会計）	浜沢（会計）	扇田（本部企画）	佐藤（会計）	工藤（借用）	西村（駐車場）	駐車場係	受付係	本部手伝ｾﾞﾐA	本部手伝ｾﾞﾐB	本部手伝ｾﾞﾐC	本部手伝ｾﾞﾐD
10/30(木)	本部手伝い学生の振り分け(就職指導室)			○		○						○					○	○	○	○
13:00	八大会議机・ﾃﾝﾄ引取											○	○	○	○					
	教室机・ｲｽの移動(2階)			○													○	○		
	教室机・ｲｽの移動(3階)					○													○	○
	学生ﾎｰﾙ丸ﾃｰﾌﾞﾙ・ﾊﾟｲﾌﾟｲｽ移動		○		○			○	○	○	○									
	体育館ﾊﾟｲﾌﾟｲｽ(50)、ｽﾃｰｼﾞｾｯﾄ、ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙを吊上げ、ﾌﾘｰﾏｰｹｯﾄ敷布ｾｯﾄ						○													
14:00	文房具の貸出し(就職指導室)	○																		
15:00	学生ﾎｰﾙにﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄを敷く、ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ上を水拭き		○		○			○	○	○	○									
	ﾃﾝﾄ設営(学生玄関前)		○		○			○	○	○	○									
	会議用長机を企画に貸出す(学生ﾎｰﾙ)			○		○								○	○					
15:30	青森放送「生ﾃﾚﾋﾞ」出演出発				○			○	○	○	○									
16:00	学内装飾(ﾁﾘ紙花、紙ﾃｰﾌﾟﾘﾎﾞﾝ)																○	○	○	○
	企画名表示看板配布			○		○						○	○	○						
17:00	簡易ｺﾞﾐ箱(ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ箱製)作る(分別毎)		○														○	○		
10/31(金)	ﾚﾝﾀﾙ機材の借用に出発(運転は飼牛主任に依頼済)											○	○							
09:00	体育館(入賞者目録作り、得点ﾎｰﾄﾞ作り、ﾏｲｸﾃｽﾄ)						○													
	受付(ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ類・屋内ｽﾘｯﾊﾟ準備、教室案内張り紙、同窓会準備手伝い)				○											○				
	駐車場係(指示棒(5本)、ﾄﾗﾝｼｰﾊﾞｰ(3)準備、駐車場矢印板設置)													○	○					
	ｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰ(抽選所、ｽﾀﾝﾌﾟ台(5ヵ所)ｾｯﾄ)			○							○									
12:00	模擬店機材の貸出し(調理実習室)		○										○							
	映画上映(試写)										○									
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ無料体験(学内看板、ﾎﾟｽﾀｰ作成)					○														
	会計(材料費残金と領収書回収、釣り銭配布)								○	○		○								
11/1(土) 08:30	消防点検立会い	○																		
9:00	開会式(学生ﾎｰﾙ)	○	○	○	×	○	○	×	×	×	○	○	○	×	×	×				
	駐車場係(誘導開始、学生駐車場に誘導)													○	○					
9:30	営業開始(受付は学生玄関を開ける)				○											○				
	来賓受付(来賓案内)	○			○															
	体育館(各ｽﾃｰｼﾞの開始時間前に放送を入れて誘客)						○	○												
10:00	映画上映(時間になったらﾋﾞﾃﾞｵﾃｰﾌﾟを入換え)										○									
12:00	ｶﾗｵｹ大会(12時ｽﾀｰﾄ、時間前にﾊﾟﾃﾞﾝｾﾞﾐから借用、館内放					○	○	○					○						○	○
14:00	ｶﾗｵｹ大会(終了後、ﾊﾟﾃﾞﾝｾﾞﾐに返却)					○	○						○						○	○
16:00	1日目営業終了(全館に終了放送)							○												
〃	受付(ｽﾘｯﾊﾟ)の後片付け、翌日ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ準備)				○										○					
	ｺﾞﾐの回収、ﾄｲﾚｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ交換、喫煙所掃除	○	○								○		○				○	○		
16:30	会計(放送で各模擬店・企画から売上金回収指示、売上金集計)							○	○	○		○								
18:00	館内点検(ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽ元栓、非常口の施錠確認)	○	○																	
11/2(日)	会計(放送を入れて各模擬店・企画に売上金を返却)							○	○	○		○								
09:00	駐車場(誘導開始、1日目と異なりｼﾞｬﾘ駐車場に誘導)													○	○					
9:30	営業開始(受付は学生玄関を開ける)				○											○				
12:00	保育ﾌｫｰﾗﾑ(放送で開会前に誘客し、ﾌｫｰﾗﾑ中は211室の放送を止める)							○												
15:30	手伝い学生の集合時間																○	○	○	○
16:00	営業終了(全館に終了放送)							○												
16:10	受付撤去・駐車場誘導終了				○									○	○	○				
	模擬店(模擬店毎に調理器具・借用機材を洗わせる)		○																	
	借用(放送で会議机、ﾌﾟﾛﾊﾟﾝｶﾞｽﾎﾞﾝﾍﾞ、ｽﾀﾞｽｷﾝ借用機材を学生玄関に集める)		○	○		○		○			○									
	展示企画(教室机・ｲｽを戻させる)			○	○	○					○		○	○	○	○		○	○	○
	体育館(借用機材の返却)						○										○			
16:30	会計(放送を入れて売上金の回収、売上金集計)、18:30迄に希望模擬店に利益分を還元する							○	○	○		○								

※1 平成15年度 第33回学生祭資料を一部修正した。※2 後始末日の作業内容と実行委員配置表は別に作成した。体裁は本表と殆ど同じである。

ミの処理である。前もってゴミ収拾業者に回収日を予約しておく必要がある。

9．資料の管理・保存について

学生祭では、様々な書類やコンピュータソフト上のファイルが作成される。また契約書や領収書が学生祭実行委員会に残る。しかし、今年度の学生祭実行委員は、自分たちが中心になって開催する学生祭の実施にばかり注意を向けて、翌年度への引き継ぎを考えていないことがある。特に本学の場合、短期大学２年の在籍期間しか無いために、２年生と１年生の結びつきが弱く、資料が残っていない場合は、翌年度の担当者にとって一から始めなければならない事態になる。２年生から１年生へ業務内容が引き継がれない原因の一つには、２年生にとっても自分達が中心になって行う学生祭は初めてなので、１年生へ業務内容を伝えられるまでに経験を積んでいないので、今回の学生祭を実施することに注意が集中してしまうことが原因になっていると考える。

そのため､学生祭で発生した様々な資料は、大切な引継ぎ資料になる。ところが、実行委員の学生は資料の重要性を認識せず、学生祭終了後散逸してしまっていることがある。学生祭実行委員会の書記または記録担当を設けて、資料を保管させることが必要である。

10. 学生祭実行委員の精神的ケア

学生達は、平日であれば授業に出て放課後はサークル活動やアルバイト等、個人で掌握しうる範囲の生活を行っている。ところが学生祭になると、学外企業・団体・個人との交渉事があり、また責任者になると全体的な作業の進捗状況を把握し、次の作業を考えなければならない。特に学生祭実行委員長には様々な情報が集まり、全体的な方針の決定を行い、難しい交渉事をこなし、外部に出す印刷物をチェックし、作業の進捗を把握して、作業の遅れている部署に応援体制を組まなければならない等、沢山の案件に取り組まなければならない。

これらの、学生にとっては過重とも思われる精神的負担のために、何年かに一人の割合で、実行委員長または各部署責任者の学生の中に、昨日まで作業の進み具合を気にして、「あれもやらなければ､これもやらなければ」と話していたのに、急に一日、二日準備作業を休む学生がいる。休むのは、学生祭の本祭日が近づいた時期が多い。各部署の責任者であるから、結果として準備作業の遅れがより大きくなる。

きっかけとしては、重要な準備作業の工程が責任者学生の理解と異なり、予定通り進んでいないことが判明した場合や、先に述べた教職員参加企画・外部団体企画との交渉が行き詰まった場合に休んでしまう傾向がある。

この場合、責任者学生には、前もって、1）学生祭の全ての準備作業がスケジュール表通り進むことは殆ど不可能で、必ず幾つかの不充分な結果が含まれることを理解して貰うこと、また、2）難しい交渉事に、必要であれば学生会担当教職員が立ち会って調整することなどで、多少なりとも精神的負担を軽減させることが必要だと考える。

11. 終　わ　り　に

（1）「今年度の学園祭は成功だった」とは、どういうことを指して言うべきであろうか。来場者数が昨年度並み、またはそれ以上だった場合は、それを成功の一つの理由にしても良いと思う。しかし、来場者数は天候に大きく左右されるものである。また来場者数の増減は、ひとえに宣伝・広告活動の差が大きい場合もある。

筆者は、来場者の数も含めて、次の諸点で「学園祭の成功」を語るべきではないか、と考える。

1）大きな事故やトラブルが無く、無事終了した。また苦情やトラブルが発生しても何らかの方法で解決を図り、苦情やトラブルがより大きな問題に発展しないで済んだ、2）来場者数が前年度並み、またはそれ以上を確保した（天候の影響は当然考慮しなければならない）、3）来場者アンケート、参加学生アンケートを取って、来場者であれば「興味深い企画があった」、「学生が良く頑張っている」等、参加学生であれば「良い経験をした」、「参加して勉強になった」等の好意的な評価が半数以上を占める等、複数の要因を根拠にすべきだと考える。

（2）これまで学園祭は、学生自治会が学園祭実行委員会という組織を作って行う、学生自身で行うべき行事である、という意識が大学関係者や教職員に支配的であった。

しかし、本学のように地方に設立された規模の小さな短期大学の場合、次の二つの理由から、大学としても学園祭に協賛して、学園祭をバックアップすべきであると考える。

1）「2．これまでの経過」で述べたように、現在多くの学生が、以前に比べて対社会的行動において未熟なまま大学に入学して来てしまうため、学生だけでは対社会的な契約行動が取れなくなっている。その勉強をさせるためにも、学園祭に大学教職員は関与すべきでないという意見も聞くが、学園祭実行委員になって、初めて接する外部企業・団体に、接触のきっかけとなる最初の連絡も取らずに、ただいたずらに学園祭までの準備期間の日数を過ごしてしまった場合、結局何の勉強もしないのでは無いだろうか。

2）現在、各大学・短大とも少子化の影響を受けて、学生数減少の危機に直面している。そのため各大学・短大では、広報・募集関係予算を増額して、テレビＣＭや新聞広告の他に、高校生へのダイレクトメールを始め、オープンキャンパスや高校へ出向いての出前授業を行う大学が増えている。

ところで、学園祭は一般市民や大学生の他に、高校生や中学生、小学生も来場する

大学宣伝の絶好の機会である。大学が学園祭に参加する企画としては、オープンキャンパスや一般市民のための公開講座を開講する等、様々な企画が考えられ、増え続ける広報・募集関係予算の節約になると考える。

ところで、大学が学園祭に関与するに際して、学生自治会主催行事という建て前を重視するならば、次の二つの点を最低限整えてやる必要があると考える。１）各ゼミまたはサークルの企画参加を半ば義務付け、学内企画の数を量的に確保する、２）各ゼミまたはサークル代表者を学園祭実行委員会に入れることにより、主催者組織の人員を確保する。以上２点は、学生自治会と協議し、学園祭開催するに当たっての枠組みとして準備してやる必要がある、と考える。

ただし、大学として、また大学教職員が学園祭に関与するにしても、あくまで学生自治会主催の行事であるから、学園祭実行委員会の決定事項が、法令や公序良俗、大学の設立目的や学生自治会の目的に反しないならば、より尊重されるべきであると考える。大学教職員の中には、ゼミ企画等で学園祭に協力する際、学生の意見を聞かずに自身の意見を優先させてしまう人がいるが、学生との対話の中で学生の反応を見ながら対応する、対人技術が求められていると考える。

（３）「５－１．学生祭実行委員会の組織化、学生祭の全体計画立案（企画募集中心）、作業管理に関すること」でも一部述べたが、学園祭開催に当たって、学園祭実行委員会の学生達は、過去の先輩達が行ってきた方法とスケジュールを、踏襲または改善して実際の作業に当たっている場合が多い。つまり、筆者が学生会を担当する以前は、「ガント･チャート」の利用や、本祭日間近におけるより詳細な作業項目を列挙した進捗管理表の利用等、プロジェクト・マネジメントから見た取組みが不足していた。今後、学園祭実行委員会というイベント実施プロジェクトに対して、プロジェクト管理の経営工学的な手法を利用した取組みがさらに必要だと考える。

参　考　文　献

参考文献としては、プロジェクト・マネジメントに関する書籍が中心になる。

1）中嶋秀隆；「改訂版　ＰＭプロジェクト・マネジメント」日本能率協会マネジメントセンター，2002

2）宮川　雅明；「入門　プロジェクト・マネジメント－目標達成への最強の組織戦略」　ＰＨＰ研究所，2003

3）長尾精一；「先制型プロジェクト・マネジメント－なぜ、あなたのプロジェクトは失敗するのか」　ダイヤモンド社，2003

4）Ｅ・ゴールドラット；「クリティカルチェーン－なぜ、プロジェクトは予定どおりに進まないのか？」　ダイヤモンド社，2003